

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104351		
法人名	有限会社 らくてん		
事業所名	グループホームかわびら(ユニット1階)		
所在地	長崎県長崎市川平町1199番地		
自己評価作成日	平成27年10月10日	評価結果確定日	平成27年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosvoCd=4270104351-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成27年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街にも近く交通の便の良い住宅街に立地し、周辺の川沿いは入居者の皆様の散歩コースとして、自治会の方々が整備して下さっている花壇や川にいる水鳥を観ながら散歩を楽しまれています。主治医との連携により24時間体制で適切な医療を受けられるよう支援しています。季節毎の行事やドライブ等、外出の支援にも力を入れています。経営者が割烹をしていた経験から、特に食事に関しては栄養管理と調理、盛り付けにも心配りをし、食事が楽しみなものとなるよう努めています。入居者の皆様の個性やこれまでの生活習慣を尊重した介護に努め、食事の支度や洗濯物たみ等、お一人おひとりの力を活かしながら参加され、助け合い楽しく笑顔で暮らして頂けるよう、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念に基づき支援させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者への支援の根本となる支援計画書は、入居者や家族とホームが共同で作上げる仕組みが確立しており、皆が一体となって入居者を生活支援する体制となっていた。また入居者を支援する職員間の連携や風通しがよく、協力体制が随所において確認できた。一例として、居室内に手すりを設置しないと転倒のリスクが高まる入居者のケースにおいて、職員の声に経営幹部自ら迅速に手すりを設置するなど、入居者の身体症状に応じた対応を法人全体で取り組んでる。最後に入居者が安心して生活を営むことができるように、昼夜問わず対応可能な医療機関との連携が図れておりし、医療系の資格を持った講師を招いての内部研修を多頻度に行うなど、今後の地域包括ケアシステムの構想に順応していくことのできる体制を着々と整えていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎朝理念の唱和を行い、「心穏やかな暮らしつつまでも」の理念に基づき日々の介護に当たっています。またホームの行事の時は、参加のご入居者・ご家族・職員全員で理念の唱和を行っています。	「心穏やかな暮らしつつまでも」の理念は、ホーム長の想いを込めた文言であった。理念の共有については、毎朝の唱和に加え、入居者も容易に見えるところに貼り、ホームの行事の際は職員だけではなく、参加者全員で唱和することを確認した。また、理念の実践に関しては、穏やかな暮らしを提供するために、特に居心地の良さを提供できるように、職員で話し合いを重ねていることを確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時にはご近所の方が声を掛けて下さり、会話したり花壇や菜園を見せて頂いています。近隣の保育園からは毎月訪問があり交流を続けています。地域での昔からの友人やご近所の方の来所も歓迎しています。	事業所開設が平成14年ということで、地域住民の認知度も高く、入居者と職員が近くの川沿いを散歩する際、自然に挨拶を交わして地域住民の一員としてのつながりを保つ機会を持っている。また、地域との交流という面では、毎月近隣の保育園の園児と交流を図ったり、地区の行事へ参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、ご入居者の日々の暮らしの様子や、ホームで行っている行事や研修内容の報告を行い、認知症の方への支援方法等の理解を深めて頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、ご入居者の生活の様子や行事、研修の報告等を行い、評価への取り組みに関しても報告しています。自治会長様からは、介護の参考になる新聞記事や馴染みの歌や昔話等のDVDを随時提供して頂いています。	運営推進会議の議事録より、普段の取り組みの報告や、話し合いの内容を確認することができ、議事録は家族の立場になって、わかりやすい構成となっていた。また、この会議の場で家族から「日中あまり寝せないでほしい」という要望があったが、食後しばらくしてから、時間を決めて行っていることを説明して了承を得ていた。その他、家族が運営推進会議に参加する機会を多くする取り組みとして、水曜日と土曜日と交互に開催していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へは、すこやか支援課や地域包括支援センターの職員も参加され、ケアサービスの取り組み等を報告してご意見を頂いています。また普段からケアサービスの事、手続きの事等を積極的に相談しています。	定期的な関わりとしては、運営推進会議の場で、地域の包括支援センター職員との関わりが挙げられる。適宜の関わりとしては、主に担当の介護支援専門員によって、利用者の支援において、不明な点等を市役所に聞く習慣を作っており、一例として入居者が本格的にリハビリを受けることができるようになった例を確認できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての社内研修を行い、適切な見守りや介護により、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関は昼間は施錠せず、センサーチャイムを設置して見守りを行っています。転倒防止の為に必要な方は、ご入居者・ご家族に説明した上でセンサーマットを使用して見守りを行っています。	身体拘束となりうる具体的な行為については、社内研修のうち、身体拘束廃止研修の資料にて確認できた。この研修以外にも社内外の研修に参加を予定していた。また、不適切なケアに至らないような取り組みとして、『入居者の横には常に家族がいる』ということを職員間で周知徹底し、この言葉を意識した関わりを確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について外部研修の受講や社内研修を行い、日頃の言葉遣いに注意するとともに、事業所内で虐待が起こらないように防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について外部研修の受講や社内研修を行い、個々の必要性については地域包括支援センター等の関係者と相談して支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は重要事項説明書に記載して入居前に説明、不明点の確認を行い契約しています。改定についてもご家族に事前連絡し、納得して頂いてから手続きを進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に情報交換を行い、気軽に話せる雰囲気作りに努め、2ヶ月に1回の家族会でも意見交換できる場を設け、ご家族の思いや要望を運営に反映できるよう努めています。玄関にも意見箱を設置して毎月のお便りの中で呼び掛けています。	主に入居者家族からの相談や意見内容については、受付記録簿にファイル化していることを確認できた。家族が面会に来る機会が比較的多いということで、この際に話を聞く習慣を職員間で周知していた。また、かわびら通信という書面に、最近の入居者の様子や予定、行事の報告、家族への案内などを記載するようしており、情報の発信についても工夫されていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催するユニット会や2ヶ月に1回開催する全体会には、代表者と職員全員が参加し、介護や職場の問題提起、解決に向けての話し合いの場を設けています。	勤務する職員へのヒアリングにおいて、代表者や管理者との風通しは良い様子であることを確認できた。また、職員への処遇面や、主に面会者用駐車場付近の手すり設置等を提案して、実際に処遇の改善や、安全確保の観点から手すり設置へ至った経緯を確認した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所独自の職務要件を定め、経験年数、資格、仕事ぶりに応じ、給与または賞与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回社内研修を行い、協力医療機関の医師等を招いての研修も適宜計画しています。またグループホーム連絡協議会で開催される研修会等へは積極的に参加し、職員の資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、各種研修に参加し、他事業所との交流や意見交換を通して、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や入居後も、ご本人が困っていることや不安なこと等をお聴きし、入居後もホームの生活に慣れて安心して暮らして頂けるように、対話の機会を多く持ち、信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時にご家族が困っていることや不安なこと等をお聴きし、入居後しばらくは特に連絡を取り合い、状況報告等を行い、信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態やご家族の意向に沿って、リハビリへの通院や病院受診等、協力して必要な支援が行えるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭の延長として、ご本人の力に応じて、炊事・洗濯・裁縫等、出来ることは職員と一緒に参加して頂き、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が安心して生活して頂けるよう、ご家族との連携を密にして、ご家族の来所時や毎月のお便り等でご本人の日頃の様子や体調の変化を報告し、協力してご本人を支えていく関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・親戚・知人・友人等の面会や電話、ご家族や友人との食事会、自宅への外出、近所の方との交流等、これまで大切にしてきた関係が継続できるよう、ご家族の協力を得ながら支援しています。	入居者にとって一番身近な家族との関係性を保つため、職員が一時的に自宅へ帰る支援を行ったり、グループホームで家族と一緒にご飯を食べることを自然な形で確認した。その他、電話の対応やお墓参りの支援を行う等、家族の協力を得ながら共同で実践していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士でくつろぎ、声を掛け合える場所作りを行っており、新しい方には、それぞれ声を掛けられ、励まし合い、支え合って生活していただけます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら、病院への面会や様子伺い等を行い、ご家族からの各種相談にはいつでも応じられるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から思いを把握し、毎月の「かわびら通信」の中に思いや願いを記入する欄を設けて、ご家族にもお伝えし、自宅への外出や外食の希望等は、ご家族の協力を頂きながら支援しています。	日頃から本人の思いを汲み取り、意向を確認している。家族に毎月通信紙を送ったり、面談時には意向を聞き、連携をとりながら本人が暮らしやすい環境を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りや、入居後も生活の中でのご本人との会話やご家族からの話を聞いて、これまでの生活歴や生活環境等を把握し、ケアに活かせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の会話や生活の様子、職員間の申し送りや医療との連携によって、過ごし方や体調、有する力等の把握に努めています。ケアプランの見直しの際には、担当がアセスメントを行い、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前にご本人の意向を確認した上で、担当のアセスメントを元にユニット職員全員参加のケアカンファレンスで話し合い、サービス担当者会議でご家族の意向を聴いて介護計画を作成しています。	計画書に基づきケアチェック票を作成し、日頃の状況を職員全員が確認、情報共有し更新時にいかしている。担当者会議も職員全員で取り組み、家族とも意見交換し計画書に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録は、介護計画に沿って本人の思いや気づき、体調の変化等の記録を行い共有し、また毎月個々にケア目標を立て、実践結果をケアプラン実施表に記録して介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者と一緒に野菜の収穫をしたり、ご本人の状態やご家族の意向に応じて、病院受診やリハビリ通院の支援、他のサービスの情報提供等、柔軟な対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月近隣の保育園との交流を行っていません。ホーム周辺の散歩コースには自治会の方が花を植えて下さっており、近所の店で買い物や理美容等、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人、ご家族に了承を頂き、事業所の協力医療機関より2週間に1回かかりつけ医の往診があり、日頃からご入居者の体調を相談し、24時間連絡体制を確保して、適切な医療を受けられるよう支援しています。	馴染みの歯科医やその他の病院は家族の協力で受診をしてもらっている。近くのかかりつけ医に変更があるときは前主治医より情報を充分提供してもらい今後の医療が適切に行えるよう支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に医療連携を行っている看護師が来所して、体調の観察を行い、職員は看護師にご入居者の体調の変化や気づきを伝えて相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人・ご家族の希望の病院へ入院できるようかかりつけ医と相談しています。入退院時は引継ぎやサマリー等で病院との情報交換を行い、ご入居者が入院中や退院後の生活で困らないように、早期に退院できるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明をし、家族の意向を聞き、同意を得ています。ご本人の状態に応じて、ご家族・かかりつけ医、職員で話し合いを行っています。看取りについての社内研修を行い、これまでの個々の経験を現場に活かせるよう共有しています。	入居時に看取りの説明や様式の作成をしている。看取りの事例があり、ご家族やかかりつけ医、職員が連携して安らかに看取りができるよう体制を整えている。専門的な研修を職員もおこない日ごろの支援に行かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、かかりつけ医の指導を受け、職員研修でも定期的に訓練を行っています。急変や事故発生時は、すぐにかかりつけ医に連絡し、指示に従い対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年1回の消防署立会いの訓練の他、毎月消防訓練(昼夜の設定)を行い、状況に応じた避難方法や経路を判断する訓練を行い、運営推進会議で地域の方へも協力をお願いしています。また毎月懐中電灯の点検を行い、台風の時には対応策を確認、実践し、食料を備蓄し災害に備えています。	消防署立会いの訓練や毎月昼夜を想定した消防訓練も年間計画を立て定期的に行われている。火災通報装置に近隣の職員を中心に連絡先リストを入力して勤務中の職員だけでなく多くの職員が災害時対応できるよう準備を整えている。	今後は地震や水害など災害を想定した訓練と、災害に備えた非常用食料や備品の準備を職員全体が把握できる環境への取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の社内研修を定期的に行い、お一人おひとりの尊重とプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするよう努めています。	定期的に職員の研修が行われている。不適切な言葉かけがあったら、職員間でその都度注意をしながら取り組んでいる。個人的な支援が必要なときもそっと声をかけるなど配慮して行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面毎にお一人おひとりの思いや希望を聞いて、自分で決めたり選んだりできるように働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意志を尊重し、その方のペースで過ごして頂けるように、声かけや見守りを行って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服を選んで頂いたり、お化粧品やおしゃれをする、また美容師さんに来て頂いて髪を切ったり、美容室へ出掛けて毛染めやパーマをかけられるようにする等、希望に沿って支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの力に応じて、もやしの根とりや玉葱の皮むき、盛付け、配膳等、職員と一緒にして頂き、食事は食べやすい食事形態や量で提供し、食事中も馴染みの音楽をかけたりして、雰囲気作りに努めています。	家族との外食も自由に楽しめる。お一人おひとりの要望を聞いて誕生会に好物を出したり季節に応じた旬のものを取り入れたり楽しく食事が楽しめるように工夫が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事がしっかり摂れるよう、その方の状態に応じて食事形態を配慮しています。また脱水にならないよう、夜間は居室に白湯やポカリスエットを用意して、水分摂取を勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけをし、状態に応じた介助を行っています。定期的な歯科受診を支援し、点検や掃除、義歯の調整をして頂いたり、歯周病の方には、歯科医の指導の下、歯茎のマッサージ等を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方は排泄チェック表をつけ、時間をみてトイレの声かけを行い、紙パンツやパット、下着の汚染を確認、交換の声かけや介助を行い、トイレでの排泄の自立と、清潔保持の為の支援を行っています。	一人ひとりの排泄の状況に合わせて支援が行われている。失禁しても自力で後始末ができる方は自主的に行われている。職員全員が状況に合わせた支援ができるよう環境を整えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分をしっかり摂って頂き、整腸作用の為にヤクルトを飲まれています。歩行や散歩、体操等で身体を動かして頂くよう働きかけています。毎日個別の排便チェックをつけて把握しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は週2回午前中に入浴を行っています。その日の気分や体調、外出の予定等に応じて曜日や時間帯を調整し、気持ちよく入浴して頂けるよう支援しています。浴室での1対1の会話で思いの把握に努めています。	本人の希望を聞き、入りたい時間に取り組んで入れるよう工夫をしている。シャンプーやリンスなども個々で希望のものを利用し入浴が楽しくできるよう工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後は人によっては居室で休んで頂いたり、昼食後もそれぞれ休息をされています。季節に応じて寝具の調節を行い、眠れない方にはホットミルクを出して話を聴く等、安心して気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方の薬の目的や副作用を理解し、きちんと服薬して頂く為、職員が管理して、名前と日付を声に出して確認し、手渡しして服薬を確認しています。症状等の変化は主治医に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎のドライブや外食にはご家族にも呼びかけ、気分転換が図れるよう支援しています。炊事や洗濯、生け花、歌や体操、塗り絵、散歩等、その方の好みや生活歴に応じた支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お一人おひとりのその日の希望に沿って、外気浴や散歩、買い物等、外へ出掛けられるよう支援に努めています。また、季節のドライブや外食に出掛けたり、ご家族の協力で自宅への外出や外泊等が出来るよう支援しています。	家族と連携をとり外出を行ってもらったり、日頃から一対一で近くを散歩したり買い物ができるよう職員間も連携して支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金はご家族が管理されていますが、お一人おひとりの力に応じて、買い物時の支払いを自分でして頂く等の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等から電話がかかって来たり、電話をかけたい時にはホームの電話からかけて頂くようにして、難聴の方には職員が間に入って会話を支援しています。毎年ご家族へ年賀状を書かれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や作品、お雛様や五月人形等を飾り、季節感を感じて頂けるようにし、玄関には外気浴できる場所を設けて、花や景色を眺められるようにしています。温湿計を設置してエアコンや床暖房、加湿器、空気清浄機等で快適に過ごせるように調節しています。	季節に応じた手作りの作品作りをしており、リビングなど共有の場に張ったり飾ったりしている。一緒にテレビ観戦をしたり、季節の花をいけばなにするなど皆で楽しめる環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂でテレビを観たり談話したり、玄関先のベンチに座って外を眺めたり、思い思いに過ごせる居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、使い慣れた家具の持ち込みや、ご家族の写真を貼ったり、アルバムや本、新聞や雑誌を置く、お位牌を持って来てお参りされる等、居心地よく過ごせるように支援しています。	馴染みの家具や家族の写真、お位牌など自由に持参できている。それぞれの体に合わせた手すりを取り付けたり、各部屋が個性的で本人の意向に配慮した環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、居室等に手すりを設置し、通路は歩行の妨げにならないよう整備して、居室の表札や「便所」の表示等、分かりやすくし、安全で自立を支援できる環境作りに努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104351		
法人名	有限会社 らくてん		
事業所名	グループホームかわびら(ユニット2階)		
所在地	長崎県長崎市川平町1199番地		
自己評価作成日	平成27年10月10日	評価結果確定日	平成27年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4270104351-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成27年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街にも近く交通の便の良い住宅街に立地し、周辺の川沿いは入居者の皆様の散歩コースとして、自治会の方々が整備して下さっている花壇や川にいる水鳥を観ながら散歩を楽しまれています。主治医との連携により24時間体制で適切な医療を受けられるよう支援しています。季節毎の行事やドライブ等、外出の支援にも力を入れています。経営者が割烹をしていた経験から、特に食事に関しては栄養管理と調理、盛付けにも心配りをし、食事が楽しみなものとなるよう努めています。入居者の皆様の個性やこれまでの生活習慣を尊重した介護に努め、食事の支度や洗濯物たみ等、お一人おひとりの力を活かしながら参加され、助け合い楽しく笑顔で暮らして頂けるよう、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念に基づき支援させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時、理念を唱和し、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念に基づいて日々の介護に当たっています。また、行事の際は、ご入居者・ご家族・職員全員で理念の唱和を行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時にはご近所の方と挨拶や会話を交わし、近隣の保育園の子どもさん達とは毎月交流会を行っています。また、運営推進会議の際には、自治会長様や民生委員様より地域の情報を頂き交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、ご入居者の日々の暮らしの様子や、ホームで行っている行事や研修の報告を行い、認知症の方への支援方法等の理解を深めて頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、ご入居者の生活の様子や行事、研修の報告を行い、評価への取り組みに関しても報告しています。自治会長様からは、介護の参考になる新聞記事や馴染みの歌や昔話等のDVDを随時提供して頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へは、すこやか支援課や地域包括支援センターの職員も参加され、ケアサービスの取り組み等を報告してご意見を頂いています。また普段からケアサービスの事、手続きの事等を積極的に相談しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての社内研修を行い、適切な見守りや介護により、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関は昼間は施錠せず、センサーチャイムを設置して見守りを行っています。転倒防止の為に必要な方は、ご入居者・ご家族に説明した上でセンサーマットを使用して見守りを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について外部研修の受講や社内研修を行い、日頃の言葉遣いに注意するとともに、事業所内で虐待が起こらないように防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について外部研修の受講や社内研修を行い、個々の必要性については、地域制包括支援センター等の関係者と相談して支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は重要事項説明書に記載して入居前に説明、不明点の確認を行い契約しています。改定についてもご家族に事前連絡し、納得して頂いてから手続きを進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や2か月に1回の家族会でも意見交換できる場を設け、ご家族の思いや要望を運営に反映できるよう努めています。玄関にも意見箱を設置して毎月のお便りの中で呼び掛けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催するユニット会や2か月に1回開催する全体会には、代表者と職員全員が参加し、介護や職場の問題提起、解決に向けての話し合いの場を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所独自の「職務要件」を定め、経験年数、資格、仕事ぶりに応じ、給与または賞与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2か月に1回社内研修を行い、協力医療機関等の医師等を招いての研修も適宜計画しています。またグループホーム連絡協議会で開催される研修会等へは積極的に参加し、職員の資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、各種研修に参加し、他事業所との交流や意見交換を通して、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時にご本人が困っていることや不安なこと等をお聴きし、入居後もホームの生活に慣れて安心して暮らして頂けるように、説明や声かけを行い、信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時にご家族が困っていることや不安なこと等をお聴きし、入居後しばらくは特にこまめに連絡を取り合い、説明や話し合い等を行い、信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談でご本人やご家族の意向をお聴きし、必要な支援が行えるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の力に応じて、炊事・洗濯・裁縫等、出来ることは職員と一緒に参加して頂き、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時や毎月のお便り等でご入居者の日頃の様子や体調の変化を報告し、必要に応じて話し合いの場を持ち、ご本人とご家族の絆を大切に、共にご本人を支えていく関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人やご近所の方の訪問を歓迎し、自宅や墓参り等の外出を支援し、これまで大切にしてきた関係が継続できるよう支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士が集える場所を作り、良い関係が築けるよう支援に努めており、ご入居者同士が声を掛け合い、励まし合って生活しておられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら、病院への面会や様子伺い等を行い、ご家族からの各種相談にはいつでも応じられるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月ご家族宛に郵送しているかわびら通信の中にご本人の思いを記入する欄を設け、職員が把握すると共にご家族にも報告し、自宅への外出や外食等の希望時は、ご家族の協力を得ながら支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りや、入居後も生活の中でのご本人との会話やご家族からの話を聞いて、これまでの生活歴や生活環境等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の会話や生活の様子、職員間の申し送りや医療との連携によって、お一人おひとりの過ごし方や体調、有する力等の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前にご本人の意向を確認した上で、ユニット職員全員参加のケアカンファレンスで話し合い、サービス担当者会議でご家族の意向を聴いて介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録は、介護計画に沿った記録をし、職員間での情報共有に役立て、また毎月個々にケア目標を立て、実践結果をケアプラン実施表に記録して介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向に応じて、病院受診の支援や外出の支援等、柔軟に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時に花を見たり、川に水鳥を見つけて楽しんだり、近隣の保育園等の交流や、近所の店での買い物、理美容等、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、週1回の往診に限らず日頃からご入居者の体調を相談し、必要時には他の医療機関を紹介して頂いたり、24時間連絡体制を確保して、適切な医療を受けられるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が来所して体調の観察を行い、職員は看護師にご入居者の体調の変化や気づきを伝えて相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は口頭での引継ぎやサマリー等で事業所と病院との情報交換を行い、ご入居者が入院中や退院後の生活で困らないようにし、またできるだけ早期に退院できるように、その都度情報交換や話し合いを行うように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でご本人やご家族の意向を聴き、事業所でできることを十分に説明して、主治医と連携しながら支援に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変は主治医に連絡する、また職員研修で対応方法を学び、実践力を身に付けるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年1回の消防署立ち合いの訓練の他に、毎月消防訓練(昼夜の設定)を行い、状況に応じた避難方法や経路を判断する訓練を行い、運営推進会議等で地域の方へも協力をお願いしています。また毎月懐中電灯の点検を行い、台風の時には対応策を確認、実践し、食料を備蓄し災害に備えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の人格を尊重し、否定せずに受け止め、相手を敬う言葉遣いで、トイレの声かけはさりげなくする等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	不安な気持ちなどが多くあり、同じ事を繰り返し尋ねてこられるので、その都度その思いを受け止め、希望を聞くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分、その方のペースを大切に過ごして頂けるよう、声掛けをしながら希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を自分で選んで頂いたり、美容師さんに来て頂いて髪を切る、希望に応じてパーマをかけに行く等、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、盛り付けなど、お一人おひとりの力に応じて、職員と一緒に食事作りや食器拭きなどをして頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に合わせた食事量、食事形態等で提供し、必要な声かけや介助を行い、栄養面では主治医に相談しています。夜間も居室に白湯やポカリスエット等を用意し、水分摂取の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけやご本人の状態に応じた介助を行っています。また、定期的な歯科受診や往診により、口腔内の点検と掃除を行えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の力や排泄パターンに応じて、トイレの声かけや介助を行い、排泄の失敗を減らし、トイレでの排泄に向けて支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方の好みや状態に合わせて食事や飲料の工夫をし、食事や水分をしっかりと摂って頂き、運動や歩行を行うことで、なるべく下剤に頼らないよう、予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は週2回の入浴を午前中に行っています。その日の体調や気分、予定等に合わせ、早めに入って頂いたり、遅く入って頂けるよう工夫をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具の調節を行い、眠れない方には飲み物を出して話を聴く等して、安眠の支援を行っています。冬場はホットカーペットを使用して、快適な環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの使用している薬を把握し、症状の変化に応じて主治医に相談し薬の調整をさせて頂いています。錠剤・散剤等、ご本人が飲みやすいように主治医に相談し、きちんと服薬できるように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の好みや生活歴に応じて、炊事や裁縫、歌や踊り、散歩やドライブ等の楽しみ事や役割の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日はホーム周辺の散歩に出掛け、季節のドライブや外出に行ったり、ご家族の協力を得て、墓参りや買い物、自宅等へ出かけられるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方はご家族が管理されていますが、自分で支払いなどをされる方は、季節に応じて着衣など一緒に買い物に出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等から電話が掛かって来た時は、ご本人に取り次ぎ、いつでも会話ができるようにしています。また、毎年賀状を書ける方には書いて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度計を設置して、ご入居者が快適に過ごせるよう調節し、季節感が感じられるように季節の花や作品を飾ったり、七夕やお雛様等季節の飾りつけをして、居心地よく過ごして頂けるように支援しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室でテレビを観たりして一人でゆっくり過ごしたり、食堂で気の合った入居者の方と談話するなど、思い思いに過ごして頂けるような居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、家具や寝具を持ち込んで頂き、希望によりお位牌や写真を置いてお参りされている方もおられます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下に手すりを設置し、通路は歩行の妨げにならないよう整備して、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように支援しています。		